桐生市下水道使用料審議会委員委嘱状交付式及び
第1回桐生市下水道使用料審議会 議事録

1. 日時 令和6年11月8日 午後1時15分から2時30分まで
2. 場所 桐生市役所 501会議室
3. 出席者 (1) 委員 13名中13名出席
(2) 事務局 水道局長、下水道課長、下水道課業務係長、
下水道課業務係

4. 委嘱状交付式

- (1) 市長より委嘱状交付
- (2) 市長挨拶
- (3) 出席者自己紹介
- (4) 会長・職務代理者選出
- (5) 市長より諮問書交付

5. 審議会

- (1) 事務局より諮問内容説明
- (2) 質疑応答

会長：市長からの諮問書「2. 諮問の趣旨」の所で、下水道事業は、地方公営企業法において「地方公共団体の一般会計又は他の特別会計において負担するものを除き、当該地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てなければならぬ」とされているということで、独立採算の原則をもって下水道使用料を決定しなくてはならないということですね。結果的に今ここで赤字が出ているということは、どうしても使用料の改定に向かっていかなければならないということですので、それに対して頭に入れていただいて審議をしていただきたい。使用料を上げるという意見も出てくれば、市が負担できる部分は負担すればいいのではないかというご意見も出てくるかとは思いますが、今日質問をお受けしても、今説明を聞いたところなので質問はできないと思いますので、ひとまずは説明の中で聞きたいことなどがあれば、個人の意見ということではなく、意味がよく分からないところがあればご意見をいただければと思います。

委員：PPPとかPFIを導入することは検討されているということですが、他の市の事業でPPPとかを導入しているというのは今のところないということですか？

事務局：下水道事業に対しては国交省の方から国費支援の要件とされていることと公営企業会計という中で、使用料収入を得てやっていかなくてはならないという状況から、一般的な公共事業とは違う点もあります。下水道事業については、こういった官民連携を導入しなさいというのが国交省から示されております。今、市の方では官民連携をやっている事業はないです。

委員：そうすると、これが先駆けになるようなことにもなるということと、PPPを導入すればどのくらいの経費が節減できるかというのは桐生市としてはあるのでしょうか。

事務局：ウォーターPPPを導入するための導入可能性調査というものを行っています。導入可能性調査というものは、ウォーターPPPを導入するかしらないかということと、どういう枠にするか、下水道事業でも処理場や管渠などで事業が成り立っていますので、こういった枠組みにするかということとを調査している段階です。その中で、公共でやった方がいいのか、官民連携でやった方がいいのか、というような費用対効果というところも調査していてその中で判断していきますので、今のところはまだ出ていません。

委員：では、この審議の途中で、そういうものが出てくる可能性があるという考えですか。

事務局：導入可能性調査は6年度、7年度の2か年で行います。7年度の早いうちにはというところでやってはいますが、進捗状況は変更することがあると思いますので、その中で情報が出せるようであれば、審議会の中でも情報提供をしていきたいと思います。

委員：下水の使用料金というのは、水道料金と一緒に出てきますが、水道使用料＝下水道使用料ですか。

事務局：料金の形態が違いますので、金額はイコールではありませんが、水量はイコールです。

委員：庭に水を撒いたのは下水に入らないですよ。その辺の考慮はしてありますか。

事務局：そちらも使用料の方には入っています。

委員：どういうふうに入っていますか。

事務局：下水道使用料ですが、基本的には水道使用量に対して、水道使用料と下水道使用料がかかります。もし庭に撒いた分を下水道使用料としてカウ

ントさせたくないということであれば、メーターを分けなくてははいけません。一般的な家庭ですと、お風呂ですとか、台所で使ったお水というのはそのまま下水道に流れていくということで、もし庭に使った水量で分けたいとすると、下水道に流れない分をカウントするメーターを付けていただいてカウントするようなことになります。

委員：そういう方法はあるのですか。やっているのですか。

事務局：基本的にメーターは1つですが、その辺は個別対応ということで相談させていただきたいと思います。

委員：細かいことですが、今年の夏はたくさん庭に水を撒いたと思いますが、それも全部下水道使用料になってしまっているのですか。

事務局：基本的には水道として使っているものは、下水道に流れるということ为前提として料金をかけていますので、もしそこを分けたいということであればメーターを分けるしかないということになります。

委員：分ける方法があるのですか。その方法をやっているのですか。

事務局：付けられるかどうかは確認させていただいて、また改めて答えさせていただきたいと思います。

委員：どこの家庭でも100%を下水に流していないと思いますが。

事務局：基本的にはメーターは1個です。

委員：100%下水に流している家はほとんどないと思います。

事務局：メーター1つのお宅については、庭に撒いたお水も下水道使用料としてカウントされています。

委員：その辺をどのように考えているのか。一緒に考えている訳ですね。

事務局：基本的には一緒です。どうしても下水道に流さない量が多いという時は相談の中でとなります。

委員：相談ではなくて、今後改定する方向でどういう改善方法があるかということをお尋ねしたい。私だけではなくて全部の家庭がそうなので。

事務局：基本的には今まで通りメーター1つの管理ということで考えています。

委員：その辺、会長はどうお考えですか。

会長：それに関連してですが、井戸水を使って染色業の方たちは下水に流しているわけですよね。その場合は上水道とは関係ないわけです。下水道でメーターを付けているわけですから。

事務局：そうです。井戸水を流す場合はポンプの方にメーターを付けて井戸水を流す量をカウントして下水道使用料をいただいているという状況です。

委員：そうすると、井戸水を使っている家が、井戸水を撒いてもメーターはカウントされてしまいますよね。

事務局：そうです。メーターが付いていますので。

委員：井戸水を使えばいいとは言われましたが、細かい話ですけどもできればその辺をうまく分けられればと。

もう一つ一番大事なところですが、桐生市の人口がどんどん減っていますので、ここに区域内の利用者というものが出ていますけども、それを改定に従って4年後5年後にどのくらいの人口を見ているのですか。この審議会の資料の2番目の項目に処理区域内人口が84,000と出ておりますけども、桐生市の今の状況からいくと増える方向にはないですよ。

事務局：桐生市の人口ビジョンですとか、将来の人口推計を基に予測をしております。

委員：その予測の数字というのは出てくるのですか。

事務局：先の推計については、今後の資料として出させていただきます。

委員：その辺の利用者数がはっきりしなければ、いくら上げるかというのが空論になってしまいますよね。

事務局：人口推計を基に使用料体系を考えてやっていかなくてもなりませんので、次回そういったものについてもお示ししていきたいと思えます。

委員：資料の12番目の項目に値上げのことが出ていますが。

事務局：もちろんこの料金改定案については、そういった人口減少の予測も踏まえたものになっていますので、次の資料としてそういった細かい部分についてもお示しさせていただければと思えます。

委員：この資料ではどのくらいの人口ですか。

事務局：この増額分については、人口減少は見えていないです。あくまでも令和5年度の実績と照らし合わせたものです。

委員：先に行けば行くほど、これよりも条件は悪くなるということですね。

事務局：可能性はあります。

会長：皆さん、今、初めて聞いて初めて実態を知ったというのが事実だと思いますので、次の審議会を開かなければならないのですが、来年の7月に答申を出すということですね。

事務局：来年の夏、上半期くらいまでには目途を付けたいと思っています。

会長：7月くらいまでにですか。

事務局：7月、8月、9月くらいまでというところです。

会長：前回平成28年の時の資料を見ると、当時は毎月やっていました。5か月で答申を出すという形でやっていたのですが、それでも結構大変だったので、たぶん最低4回は開かなくてはならないかなと思います。前回、4回目が終わった時点で答申を作りなさいということで、4回目が終わった時点で私が答申案を作って、それを皆さんで最終的に検討していただいて、これで答申を市長の方に上げますという形で終わり、最終的に活字になった答申を皆さんに配布したという経緯がありますので、最低3回、4回くらいはやらなくてはならないと思っております。それと、前回は第3回の時に境野の下水処理場で行いました。下水処理場を見学して、かなりの老朽化を皆さんに見てもらって、そのまま処理場で第3回の審議会を開きました。境野の下水処理場で会議することはできますよね。それとも、見学は見学だけで1回やってしまった方がいいですか。

事務局：処理場にも会議室はあります。

会長：ありますよね。今のうちに少しやっておいた方が、境野下水処理場の古さというか、これは大変だということを見ていただいた方がよろしいかなと思っております。1回は境野の処理場で会議をやりたいと思っておりますので、できれば4回目くらいで答申をまとめて、答申案を活字にして皆さんに最終で諮ってもらうというやり方をすると、3回はつめなくてはならないし、今日の段階では皆さん眺めているだけです。もう少しゆっくり読んでいただいて、次回は個別にご意見とかを取ればいいのかと思っております。

事務局にお願いですが、この資料を何度も持ってくることになるので前回は市役所の方で「28年度桐生市下水道使用料審議会」というファイルを作ってもらいました。これに綴ってそれまでの資料を全部持って次の会議に出てくる感じでした。「この間言ったここは」となった時に、こちらの資料がないと申し訳ないので。2回目以降にみなさんに配るファイルを作ってもらいたいのですが。

先ほども言いましたが、私も前回やってまたやってほしいという形で事前に3日前くらいに来て言われましたが、その時に7月までに3回くらいでと書いてありましたが、とても3回だと答申までいかないの、4回はしっかりした会議でやりたいと思っております。最後は答申を皆

さん読んでいただいて、いいとなればいいし、直すところがあれば直すという感じでいきたいと思っていますので、7月というと2か月に1回くらいはやらなくてはならないかと思います。その予定を出していただければと思います。本日は皆様のご意見というよりも、じっくり読んでいただいて、次回にと思っています。2か月に1回ですけれども、2か月後で構わないですか。それとも、今日聞いたのでこれに対して来月あたりもう1回やってしまって、質問のある方はどうぞという会議にした方がよろしいでしょうか。それとも2か月に1回でもよろしいですか。できれば、境野水処理センターは寒いので、季節の良くなった頃がいのかなと思いますけれども。日程の方はお任せできますか。どうしてもお忙しい時は欠席でも仕方ないとは思いますが、私も全然白紙であり、次いつやるかは分かりませんが、当初市から言われたのは2月と言われたのですが、2月だと少し間が空きすぎてしまい、来る前にもう1回読まないで修正できないような感じになってしまうので、できれば1月の忙しい中ですが、第2回をやらせていただいてよろしいでしょうか。その時は意見交換会のように、まずこれをたたき台にして、皆さんに色々な意見を聞かせてもらう会にしていただき、3回目は処理場を見て、28年に見た時も相当老朽化していましたので、処理自体はできますが、建屋とかは耐震制度とかは全然ない建物ですし、何かがあれば特に大変で。そう考えると、それなら赤字分を上乗せすれば済むという答申ではなくて、独立して採算を取らないといけないとなると、当然施設の老朽化や修繕など、そういうことも考えていかななくてはならないことを踏まえると、値上げせざるを得ないのかとは思いますが、どのくらいがいいかというのは最終的に皆様のご意見を聞いて決めたいと思っていますので、そんな形で第2回以降進めたいと思っていますのでよろしくお願いします。最低でも、7月には答申を出したいということですよ。

事務局：7月と限定するわけではありませんが、7、8月の夏を目途にしています。

会長：今日はこれで第1回の審議会を終わります。第2回の時までにご意見のある方は整理していただければと思います。

委員：次の2回目の会議の時に今回の料金改定の詳細が出てくると思いますが、いきなり渡されても多分分からないと思いますので、あらか

じめ資料をもらうことはできますか。

事務局：事前に資料を配るような形で用意させていただきたいと思います。

委員：あと先ほど、次開催するのにあたって、2月にするのか1月にするのかという話があったと思いますが、資料を作るのに今から考えると2月くらいじゃないと出来上がらないということですか。

事務局：そこまで細かな日程等は考えていませんでしたが、なるべく早い時期に開催したいと思います。

会長：皆さんよろしいですか。ではそんな形で、本日終わりにさせていただきます。くれぐれも、ファイルだけ皆さんに用意させていただきたいと思います。それではこれもちまして、第1回の審議会を終了させていただきます。大変ご苦労様でした。ありがとうございました。